

第3学年 道徳学習指導案

日時 平成16年10月6日(水) 4校時

学級 3年(男子12名 女子17名 計29名)

指導者 教諭 山本 克哉

I 主題名「真実を見つめる」 内容項目 4－(4) 正義、公正・公平、差別や偏見のない社会の実現
資料名「三メートルの重み」 出典「かけがえのないきみだから」学研

II 主題について

(1) ねらいとする価値について

中学校の指導項目4－(4)は、「正義を重んじ、だれに対しても公正、公平にし、差別や偏見のない社会の実現に努める」となっている。

中学生になると、社会のあり方についても目を向けはじめ、現実社会がもつ矛盾に気づき、理想を求める気持ちや正義感も強くなってくる。その反面、周囲の目を気にして、他人の意見や考えに左右されたり、自己中心的な考え方や行動をとる傾向がある。結果、自らの考えを持ちながらも、人にどう思われるかを優先し、実際の行動では見て見ぬふりをしたり、自分を正当化したりなど公平・公正でありたいとする本来の考えや事実から目をそらしてしまうことが多い。

よりよい社会を実現するためには、自他の不正や不公平を許さない断固とした姿勢と力を合わせて積極的に差別や偏見をなくそうとする姿勢が求められる。指導にあたっては自らの行いを見つめ直し、理想とする姿の実現に向けて努力しようとする態度を育てることが必要であると考えられる。自らの行いに信念を持ち、自信を持って実行できるようになることが他人や集団に対して積極的な立場で関わりあうことにつながると考える。

本主題のもとに、自らの行いを公正な姿勢で省みようとし、差別や偏見のない、よりよい社会を築こうとする態度を育てたいと考える。

(2) ねらいにかかわる生徒の実態について

今年度実施した道徳適性検査の結果を見ると、指導項目4－(4)「正義・公正公平」については、A(十分発達)23名、B(おおむね発達)3名、C(発達が不十分)3名と全国水準とほぼ同等の結果が出ている。

学級では多くの生徒が他人の不正に対して「ずるい、卑怯だ」と主張するものの、自分には甘い部分が見られ、自らの行いに対する公正・公平な態度が身に付いているとは言えない。しかし、差別や偏見に対しては強い嫌悪感を示し、他人に対しては平等に接したいし、自分に対しても平等に接してもらいたいと強く願っている様子がうかがえる。

全体的な傾向としては、よりよい集団や社会を創り上げていきたいという願いはあるものの、周囲の目を気にするなど既存の仲間関係を気にして自ら率先して行動したり、人に強く意見したりすることを敬遠する生徒が多い。

また、幼児保育や老人介護、障害者介護など様々な活動を経験しており、福祉についてはそれらの体験活動を通して深く学び、高い意識を持っている生徒もいる。

(3) 資料について

本資料は、中学3年生の女子生徒が、亡き祖母にあてて、数年前の自らの態度を悔い、その謝罪の気持ちを伝える手紙である。「わたし」が祖母に対してとった行動や態度は誰もが共感しやすい内容であるとともに、祖母の病気や死を経て大きくなったその罪悪感も生徒にとって共感的に理解できると思われる。また、手紙に示した「わたし」の決意にあるように、自分の行いを客観的に振り返って今後活かすという視点から、自らの行いを省みるとともに、公平な人間関係を望み、差別や偏見のないよりよい社会の実現に向けて働きかける態度を養っていく契機となる資料であると考えられる。

しかしながら、思いやりや家族愛、人間の弱さの克服など様々な価値が含まれている内容であるため、指導のねらいを明確に定め、授業を構想する必要がある。

Ⅲ 指導の構想

(1) 授業の概略

導入では、差別や偏見についての資料を提示し、ねらいとする価値への方向付けを短時間で行いたい。

展開では、主人公の行動の理由を問うことを通して、老人への差別偏見があったことを押さえさせたい。そして、届くはずのない手紙を書いた主人公の心境を考えさせながら、自らの行いを悔いて反省する姿を共感的に理解させたい。また、祖母に対する自分の苦い経験から学び、そこから成長した主人公の様子を考えさせることにより、ねらいとする価値へ一般化を図るきっかけにしたいと考える。

終末では、資料から離れて、差別や偏見のないよりよい社会を築いていくために必要な考え方や態度を資料や今までの体験活動・日常生活をもとに考えさせ、お互いの考えを聞くことを通して、ねらいとする価値へ迫りたいと考える。

(2) 研究との関連

- ① 考えをまとめて書かせる工夫をする。
ワークシートを配布し、中心発問に対する考えを書かせる。
- ② 体験活動との関連を図る。
ねらいとする価値へ迫るために、展開場面で福祉体験活動の考察を紹介する。
- ③ 価値に関連した自分の意見や考えを発表する場面を設定する。
ねらいとする価値についての自分の考えをまとめさせ、終末場面で発表させる。

IV 本時の展開

(1) ねらい

自らの行いを公正な姿勢で省みようとし、差別や偏見のない、よりよい社会を築こうとする態度を育てる。

(2) 展開

段階	学習活動	発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点・備考
導入 5分	1. 本時の学習内容を知る。	○ 差別や偏見に関連する資料を提示し、感想を聞く。 ・ かわいそう、ひどい ・ しょうがない	・ ねらいとする価値について方向づけをする。必要に応じて画像や映像を用いる。
展開 30分	2. 資料を読む。 3. わたしの気持ちを考える。 4. わたしの気持ちの変容を考える。	○ 数年前になぜ「わたし」は祖母との間に三メートルの距離をとったのだろうか。 ・ 友達の前で、みすばらしく見える姿が嫌だったから。 ・ 身内と思われるのが嫌だったから。 ・ 一緒に歩くのが恥ずかしいから。 ・ 見栄を張って <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">○ 「わたし」はなぜ届くはずのない手紙を書いたのだろうか。</div> ・ 逃げていた自分から卒業するため ・ 逃げていた自分にけじめをつけるため ・ 後悔しないため ・ 今後、同じような過ちを起こさないため ・ 天国のおばあちゃんに謝りたかったから ○ 主人公の「わたし」は、この先、人と接するとき、どんなことを心がけたと思いますか。 ・ 優しく、思いやりを持って ・ 傷つけないように ・ 人の気持ちを考えて行動する ・ 自分の気持ちを素直にぶつける ・ 外見で判断しない ・ どんな人にも同じ態度で	・ 教師が範読する。 ・ 外見を気にしておばあさんを邪険に扱ったことを押さえない。 ・ ワークシートに書かせて発表させる。 ・ 届くはずのない手紙ということを強調し、自分の行いを省みる「わたし」の気持ちを押さえさせたい。
終末 15分	5. 価値について考える。 6. 感想発表	○ 人と接するとき、どんな気持ちや姿勢を大切にすればよいのだろうか。今日の授業やこれまでの経験から考えよう。 ・ 思いやりを持った行動が大切 ・ その人の気持ちを考えて接すること ・ 外見で判断するのではなく、よく話してその人の内面をよく理解すること ・ 自分の気持ちを素直に伝える ・ どんな人にも同じ態度で接する ○ 今日の授業の感想を述べる。	・ 福祉体験の考察を紹介し、価値についての視野を広げる。 ・ ワークシートに書かせて発表させる。 ・ 時間をみて2～3人に指名する。

(3) 評価

- ・ 自らの行いを公正な姿勢で省みることの大切さについて考えることができたか。
- ・ より良い社会の実現のために、何が大切かを考えようとしたか。